

出題 蜚雪ゼミナール

岐阜駅前校・築樋拓真



国語を様々な側面からみて、日本語の面白さや深さを知ってもらえればと思います。

## 問題【国語】

次の各文の「あつい」を漢字に直しましょう。

(1) この部屋はあつい。

(2) あついお茶を飲む。

## 豆知識 雑学コラム

### いろいろな「あつい」

暑い夏が始まり、オリンピックの熱い戦いに期待が膨らむ時期となり、自然と「あつい」という言葉を口にする毎日ですね。今回はこの「あつい」について考えてみましょう。「あつい」は漢字で書くと「熱い」「暑い」「厚い」といろいろ書き取りができます。「厚い」は「厚い本」のように「もの

の断面が広い」ことに使い、そこから派生して「人望の厚い」など信頼度の大きさを表すときにも使います。一方で、「熱い」と「暑い」はともに「温度が高い」ときに使うため、迷うことも多々あります。では「熱い」と「暑い」の違いを見ていきましょう。まず、同じ読みで似た意味の単語を

区別するときには、二つのコツがあります。一つはその漢字を使った熟語をイメージすること、もう一つは対義語を考えるということです。「熱い」の「熱」について考えると、「加熱」、「熱湯」と火を使って温める言葉によく使われていますね。また、「熱い」の反対は氷などで冷やされた状態の「冷たい」です。つまり、「熱い」は「熱いお茶」のように「火などを使って温められて温度が高い状態」を表す言葉なのです。また、元の意味から派生して「火で温められたように」、「火が燃え上がるような」という意味で「熱い試合」という使い方もします。

ますね。また、「暑い」の対義語は気温が低い時に使う「寒い」です。このように「暑い」は「部屋が暑い」のように「気温(空気の温度)が高い状態」を表す言葉なのです。

さて、「あつい」には、「篤い」という漢字もあります。この「篤い」は「重篤」という熟語からもわかるように「体温があつい、病気の状態」を表す言葉になります。「篤い」は現代語で使う機会は少ないですが、古文では「病気である」ことを表す重要古語になります。しっかり押さえておきましょう。

## 【解答】

い燻 (2)  
い暑 (1)